

備前市病院事業改革プラン 平成28年度評価表

※評価凡例 A:前進、B:順調、C:概ね順調、D:停滞、E:後退

※自己評価の基準は、概ね前年からの伸び率とした。(当年度－前年度)÷前年度×100(%)

A:10%以上増、B:5%以上10%未満増、C:5%未満増減、D:5%以上10%未満減、E:10%以上減

※各取り組み内の数値は、矢印の前後で、「H27数値→H28数値」となっている。

IV 経営効率化計画と具体的取組

2 課題解決のための具体的取組項目 評価表

取組項目	取組開始時期	各病院での取組実績及び自己評価(平成28年度)					
		備前病院	自己評価	日生病院	自己評価	吉永病院	自己評価
ア 経営状態の問題							
(1) 職員の意識改革							
①院内会議等を通じて、職員に経営状況の周知を図り、年度ごとの経営計画を策定のうえ、経営について職員の意識統一を図ります。	28年度	毎月運営管理会議で経営状況を職員に周知した。 職員1人1日当たり診療収益 29,489円→28,505円 3.3%減	C	毎月管理職会議で経営状況を職員に周知した。 職員1人1日当たり診療収益 37,265円→35,718円 4.2%減	C	毎月院内会議を開催し経営状況を職員に周知した。 職員1人1日当たり診療収益 40,086円→40,259円 0.4%増	C
②市民の視点、患者の視点に立ち、接遇研修を継続的に実施して職員のサービス意識の高揚を図ります。	28年度	接遇研修の実施による職員の意識啓発に取り組んだ。 接遇研修参加率44.3%→45.8% 3.4%増	C	接遇研修の実施による職員の意識啓発に取り組んだ。 接遇研修参加率56.7%→68.9% 21.5%増	A	接遇研修の実施による職員の意識啓発に取り組んだ。 接遇研修参加率32.1%→34.5% 7.5%増	C
③患者満足度調査を継続的に実施し、サービスの向上に努めます。	28～29年度	年度末に、市民の方や職員向けにアンケートを実施し、ご意見をいただいた。具体的な対応は29年度から実施。	C	院内に一言ボックスを設置し患者さんからの意見を参考に改善に努めた。	C	院内にご意見箱を設置し患者さんからの意見を参考に改善に努めた。	C
④介護、福祉、行政など、多職種との積極的な交流、情報共有を図り、QOL向上の視点に立ったサービスの提供に努めます。	28年度	市の介護福祉連携課とも連携しながら多職種での協議実施。 多職種ミーティング、備前市在宅医療・介護連携推進協議会、 医師会医療連携懇親会等各種地域連携研修等に参加(管理者・院長) 吉永病院主催の地域連携研修を年3回開催。					C
(2) 経費節減・抑制対策							
①手術の麻酔、常勤医師のいない科の診療等、市立3病院間の医師相互派遣により人件費の節減を図ります。	28～30年度	備前病院から日生病院に循環器内科専門医を週1回半日派遣。吉永病院から日生病院に手術の麻酔へ常勤医師を年10回派遣。					C
②市の地球温暖化対策とも連携させながら、照明、空調等の改修により、省エネ対策を徹底します。	29～32年度	—	—	—	—	—	—
③市立3病院で材料費や各種経費の共同発注、共同仕入れ、複数年契約等を行い節減します。	28年度	事業全体での委託、賃借の契約一本化や複数年契約を既に実施しており、今後も継続して取り組みます。					C

取組項目	取組開始時期	各病院での取組実績及び自己評価(平成28年度)					
		備前病院	自己評価	日生病院	自己評価	吉永病院	自己評価
④業務委託内容を見直しします。	29～30年度	—	—	—	—	—	—
⑤職員による軽微修繕、自前印刷に努めます。	28年度	職員による軽微修繕等を既に実施しており、今後も継続して取り組みます。					C
⑥薬剤、診療材料、給食材料等について、それぞれに携わる各専門職がコスト意識をもって費用節減に取り組みます。	28年度	薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士等がそれぞれ取組んだ。 材料費比率15.3%→13.8% 9.8%減。	C	薬剤師、管理栄養士等がそれぞれ取組んだ。 材料費比率29.9%→30.1% 0.7%増。	C	薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士等がそれぞれ取組んだ。 材料費比率31.6%→31.5% 0.3%減。	C
⑦薬剤・診療材料等について、価格交渉の知識を有する専門職員を配置し直接価格交渉を行い節減します。(吉永病院)	28年度	—	—	—	—	平成28年8月より専門職員を配置し業者との直接価格交渉を実施することで、実施前と比べて値引率等も向上し効果があった。	B
(3)収入増加・確保対策							
①病病連携、病診連携を推進し、紹介率及び逆紹介率のアップを図ります。	28年度	紹介率23.9%→27.4% 14.6%増 逆紹介率19.6%→18.9% 3.6%減	B	紹介率17.9%→16.9% 5.6%減 逆紹介率28.0%→20.7% 26.1%減	E	紹介率6.5%→6.7% 3.0%増 逆紹介率11.4%→13.8% 21.1%増	A
②新患獲得に向け、健診・人間ドックの受診者の増加を図ります。	28年度	受診件数1,575件 →1,645件 4.4%増	C	受診件数919件→1,066件 16.0%増	A	受診件数 1205件→1,189件 1.3%減	C
③一部負担金等未収金の収納強化を図ります。	28年度	過年度分収納率 96.8%→99.1% 2.4%増	C	過年度分収納率 95.8%→97.1% 1.3%増	C	過年度分収納率 98.7%→97.8% 0.9%減	C
④透析病床15床を18～20床に増床します。(備前病院)	30～32年度	—	—	—	—	—	—
⑤療養病床、地域包括ケア病床の特徴を生かした利用を促進し、収入増加に繋がります。(備前病院)	28～29年度	病床利用率 69.1%→70.2% 1.6%増	C	—	—	—	—
⑥地域包括ケア病床を新設します。(吉永病院)	29～30年度	—	—	—	—	—	—
⑦心臓リハビリテーションの新設を検討します。(吉永病院)	29年度	—	—	—	—	—	—

取組項目	取組開始時期	各病院での取組実績及び自己評価(平成28年度)					
		備前病院	自己評価	日生病院	自己評価	吉永病院	自己評価
イ 人材確保の問題							
(1) 医師確保対策							
①大学医局、基幹病院への派遣協力要請を強化し、確保します。	28年度	医療法に規定する医師標準数8.41人に対し、8.52人となり、標準数を満たした。	C	医療法に規定する医師標準数7.26人に対し、6.18人となり、標準数を満たさなかった。	E	医療法に規定する医師標準数9.91名に対して10.13名となり標準数を満たした。	C
②退職医師等の情報を収集し、確保します。	28年度	医師新規採用数 0人	D	医師新規採用数 0人	D	医師新規採用数 0人	D
③勤務形態や給与、学会や研修への参加機会の増加等の勤務条件の改善について検討します。	29～31年度	—	—	—	—	—	—
④研修医の地域医療研修や、医学生への地域医療実習を積極的に受け入れ、地域医療の魅力発信に努めます。	28年度	受入数 研修医 5名 医学生 4名	B	受入数 研修医 5名 医学生 0名	B	受入数 研修医 0名 医学生 3名	B
⑤ホームページの充実に努めて病院の魅力を発信します。	29年度	—	—	—	—	—	—
⑥市立3病院間で医師派遣を実施し、各病院で不足する部分を相互にフォローアップします。	28年度	備前病院から日生病院に循環器内科専門医を週1回半日派遣。吉永病院から日生病院に手術の麻酔へ常勤医師を年10回派遣。					C
(2) 看護師等確保対策							
①ナースセンターへの登録や看護就職フェアへの参加など、あらゆる求人機会を活用します。	28年度	ナースセンターへの登録、看護就職ブックへの掲載、修学資金貸与(H28貸与者3名)等を実施し、計画的に採用、欠員の補充ができた。					C
②勤務形態や給与等の勤務条件を改善し、離職防止に努めます。	29～31年度	—	—	—	—	—	—
(3) 薬剤師確保対策							
①修学資金貸与制度を導入します。	29年度	—	—	—	—	—	—

取組項目	取組開始時期	各病院での取組実績及び自己評価(平成28年度)					
		備前病院	自己評価	日生病院	自己評価	吉永病院	自己評価
②薬学部を持つ大学への紹介依頼や、県薬剤師会への求人登録やホームページの求人情報の充実等、あらゆる求人機会を活用します。	28年度	28年度は新聞広告、広報誌、各学校へ募集案内通知、県内の大学へのPRを積極的に行い、採用には至らなかったが、次年度につなげることができた。					C
③勤務形態や給与等の勤務条件を改善し、離職防止に努めます。	29～31年度	—	—	—	—	—	—
(4)民間活力の活用							
①各職種とも、確保困難な状況下においては、人材紹介業者等の民間活力も視野に入れながら人材確保につなげます。(総合計画より)	28～31年度	備前病院での薬剤師の不足を補うため、紹介業者を利用し、人員が確保できた。吉永病院では言語聴覚士を1名確保するため紹介業者を利用したが、採用には至らなかった。					C
ウ 人口減少の問題、エ 患者受療状況の問題							
(1)医療体制の充実							
①市立病院間で連携し、休日・平日夜間についても受け入れ可能な救急体制の充実を図ります。(総合計画より)	29～30年度	—	—	—	—	—	—
②診察枠を増やし、患者受入の体制を整えます。(備前病院)	29～30年度	—	—	—	—	—	—
(2)地域連携の推進							
①地域包括ケアの中核として、患者の病態に応じて病病連携・病診連携を進め、地域医療体制の充実を図ります。(総合計画より)	29年度	—	—	—	—	—	—

取組項目	取組開始時期	各病院での取組実績及び自己評価(平成28年度)					
		備前病院	自己評価	日生病院	自己評価	吉永病院	自己評価
②かかりつけ医を持つことの啓発を行うほか、各種医療相談への適切な対応、介護福祉施設等との連携強化に努め、外来から退院後までの包括的なケアを充実させます。(総合計画より)	29～30年度	—	—	—	—	—	—
③各種健診や、健康教室等を通じて疾病の早期発見・予防に努め、信頼される医療、看護の提供を行います。また、退院後も安心、安全な生活が送れるよう、医療・介護・福祉が多職種で連携を行い、スムーズな退院調整を行っていきます。	28年度	健診件数も伸びており、毎月の健康教室の実施、年4回の糖尿病教室の開催等も通じて、健康増進に貢献できた。地域連携室の相談員による退院支援も実施した。	C	健診件数も伸びており、2ヶ月毎に実施している糖尿病教室の開催等も通じて、健康増進に貢献できた。今後は地域連携室の充実を図ることで退院支援への対応を行っていききたい。	C	・健診件数は伸びていないが、29年度から人間ドックの受入可能人数を拡大し、疾病の早期発見に努める。 ・健康教室は今年度より年3回定期的を実施することとし、食事指導等により糖尿病予防に努めた。 ・退院支援については、患者・家族と密に連絡を取りながら概ねスムーズな対応ができた。	C
④晴れやかネット・ケアキャビネット等のICTも活用しながら、地域内の医療・介護等における多職種との連携を密にします。	29～30年度	—	—	—	—	—	—
(3)その他							
①アンケート等を通して住民のニーズを聴き取り、医療体制の充実を目指すとともに、行政機関の関係部署と協力し、暮らしやすいまち造りの一端を担う役割を果たします。	28～29年度	市民意識調査の結果、備前地域での「病院」の重要度は4.27で、39ある施策のうち第5位となっているが、満足度では2.86で同31位となっており、市民の期待に応える努力が必要である。	D	市民意識調査の結果、日生病院での「病院」の重要度は4.28で、39ある施策のうち第3位となっているが、満足度では2.98で同26位となっており、市民の期待に応える努力が必要である。	D	市民意識調査の結果、吉永地域での「病院」の重要度は4.26で、39ある施策のうち第3位、満足度は3.46で同4位となり、重要度、満足度ともに高いので、今のサービスを低下することなく継続していききたい。	B
②病院フェアを開催し、地域住民との交流を深めます。(備前病院)	28年度	平成29年3月12日に実施。約180名来場。(前回約160名)	A	—	—	—	—

3 各種数値目標 評価表

(1)財務に係る数値目標

(単位：%)

区 分		28年度			29年度	30年度	31年度	32年度
		計画	実績	達成	計画	計画	計画	計画
経常収支比率	備前病院	95.5	98.6	○	99.9	100.6	101.0	102.3
	日生病院	103.2	102.8	-	103.6	103.5	103.2	103.0
	吉永病院	100.5	101.4	○	102.4	102.9	103.1	103.2
医業収支比率	備前病院	89.7	91.7	○	92.1	95.5	96.3	98.6
	日生病院	100.1	98.6	-	100.0	100.3	100.2	100.1
	吉永病院	100.2	100.6	○	102.1	102.5	102.8	102.8
職員給与費比率	備前病院	67.7	66.6	○	65.7	64.9	64.9	63.6
	日生病院	52.5	54.6	-	52.6	52.1	52.2	52.4
	吉永病院	47.0	48.5	-	48.0	48.0	48.0	48.0
材料費比率	備前病院	15.3	13.8	○	15.9	15.7	15.7	15.4
	日生病院	30.2	30.1	○	30.5	30.8	30.9	30.9
	吉永病院	31.0	31.5	-	30.0	29.5	29.0	29.0
病床利用率	備前病院	70.0	70.2	○	72.0	75.0	77.0	80.0
	日生病院	70.0	64.7	-	75.0	75.0	77.0	77.0
	吉永病院	92.0	90.4	-	92.5	93.0	93.0	93.0

(2)医療機能に係る数値目標

(単位：人、件)

区 分		28年度			29年度	30年度	31年度	32年度
		計画	実績	達成	計画	計画	計画	計画
100床あたり医師数(人)	備前病院	9.0	9.6	○	9.0	10.0	10.5	11.0
	日生病院	8.0	5.9	-	8.0	8.0	8.0	8.0
	吉永病院	23.0	21.2	-	23.0	23.0	23.0	23.0
救急自動車搬入受入率(%)	備前病院	80.0	61.7	-	80.0	83.0	84.0	85.0
	日生病院	85.0	79.7	-	85.0	85.0	85.0	85.0
	吉永病院	86.0	75.7	-	88.0	90.0	91.0	91.0
健診件数(件)	備前病院	1,600	1,645	○	1,600	1,650	1,670	1,700
	日生病院	1,000	1,066	○	1,050	1,050	1,100	1,100
	吉永病院	1,250	1,189	-	1,300	1,325	1,350	1,350

【自己分析】

備前病院

28年度の計画数値に対しての実績では、目標達成できたものが多くありますが、29年度の計画数値にはまだ達していない項目が多くあり、病床利用率や救急自動車搬入受入率の向上を通じて、損益計算に係る指標の改善を目指して行きたいと思えます。

日生病院

28年度実績では収支としては黒字を確保できたものの、各種指標に対しては未達成の項目が多くありました。

次年度からは、病床利用率や救急自動車搬入受入率の増加を図ることで、各種指標の改善を図って行きたいと考えています。

吉永病院

28年度実績で財務に係る収益的な部分は目標達成できたものの、達成できていない項目も多くありました。特に病床利用率と救急自動車搬入受入率について、次年度以降目標達成に向けて病床管理の徹底や救急患者を優先受入できるような体制整備などを図り指標の改善を目指して行きたいと考えています。

【経営評価委員会評価、意見】

総合評価	C
------	---

各取組項目について、一定の努力の跡が見られ、改革プランは概ね順調に実行されているものと思われる。ただ、自己評価においてD(停滞)、E(後退)と評価した項目については、今後一層の努力を要するところである。

各種数値目標においては、未達成の項目も多く、当委員会において協議された内容を踏まえながら十分に検討し、対策を講じてもらいたい。

○課題別意見概要

〔経営状態の問題〕

3病院が地域包括ケアの拠点になっていくことが大事で、かかりつけ医の診療支援を積極的に行い、後方支援的な機能を果たすと明確にしていく必要がある。

連携については、全く顔を見たことがないような関係では、なかなか紹介しづらいので、顔の見える連携の工夫をお願いしたい。

病院でしていること、持っている機能等を、医師会や市民にどんどん情報発信してほしい。広報誌で出す、掲示物をする等、医療についての情報提供の場を作っていくことで、市内の医療機関を受診する方が増加し、経営改善につながるのではないかと。

経営状況についても、実際の市民の要求に関してどのような努力をし、その結果がどうであったかということ伝えていく方が、市民のためになり、病院のためにもなるのではないかと。

〔人材確保の問題〕

医師の確保は、現状では困難となつてはいるが、医師数が不足することで、各医師への負担が大きくなるとともに、患者数にも影響するため、確保に力を入れること。

看護師の確保にあたっては、市とも連携し、民間の医療機関も含めて地域として確保するような方法も考えてほしい。例えば、高校へ出前講座に行つて看護の魅力伝えたり、夏休み等に帰省している看護学生を対象に懇親会を開いて市の医療の魅力や方向性について話したり、市に帰ればこんな研修ができる等の事を伝えたりしている自治体もあるので、参考にしてほしい。

〔人口減少・患者受療動向の問題〕

人口減の傾向は明らかであり、市や他の医療機関等とさまざまな連携を模索して対策を講じてほしい。

例えば、疾患の重症化を防ぐという意味で、各病院で実施している糖尿病教室は、今後も重要となってくる。かかりつけ医と連携して、各病院の糖尿病教室への参加を勧めてもらい、患者の生活変容や行動変容につなげて、刺激を与えることで行動変容を促し、適切な医療につながっていく。

また、リハビリ機能をしっかり活かした病院であると市民に伝え、市の介護予防事業にも関与して、いろいろな技術支援をする等、提供している医療が魅力的だという提示をすることで、備前市内で医療を頼る患者がもっと出てくると思われる。